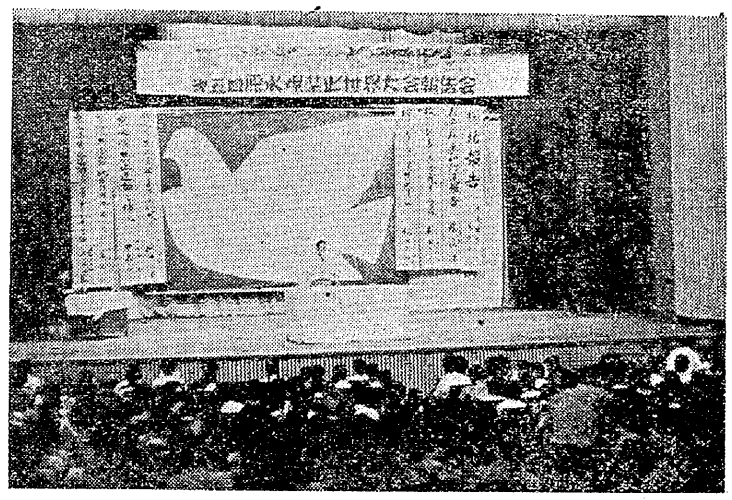


市民会館で行われた平和大会報告会

# 原爆の恐しさ訴える

## 意義深かった平和大会報告会

去る八月三日から六日までの三日間にわたつて行われた広島での第五回原水爆禁止世界大会に参加した大牟田代表者の報告大会が、大牟田市民会館で八月八日午後六時から、これまでにない多数の市民が集合して開催された。

まず代表団団長の月足康則氏の総括報告にはじまり、三鉱労組、三鉱職員婦人会、原水爆被害者の会三鉱労組、地域婦人会、市議会、平和委員会と各代表の力強い報告が、各分科会ごとにつぎつぎと行われたが、その内容は一貫して原水爆のおそろしさを切せつと訴えていた。とくにその中での中心問題になつた報告を二、三ひろつてみよう。

### 原水爆絶対反対

三鉱職員婦人会代表

ストロンチユーム90の人類に与える生命への危害、またそれによる身体障害など、原爆地から四キロもはなれた地点でさえその被害はいまだにケロイドといつた恐しい傷あとをのこしているのでございます。

私たちはこういうものに黙つてはおられません。あくまで原水爆もしくは原水爆戦争には絶対反対するものであります。

### 不安と恐怖の連続

原水爆被害者の会代表

あのいまわしい原爆が、広島・長崎に投下されてから、早や十四年たちました。

なにものにも変えがたい肉親や友を一瞬にして失い、みずからも原爆の洗礼を受けた被害者は福岡県下でおよそ六千名、全国では実に五十数万を数えておりますが、これらの人びとはいつ発病するかもしれない原爆症への不安と恐怖におののきながらこの十四年間をやつと生きつづけてまいつたのであります。

みなさん、たとえ片どきにもせよ、片足あるいは片腕を使えないときの不自由さや明るい世界に見はなされた矢明者の人生がいかに苦しく言語に絶するものであるかは、ことさら申すまでもないと存じますが、身体の不自由に加えて「原爆症」という〝悪魔〟にいつ命を奪われるかも知れない被爆者の生涯をご想像いただけるでしようか。

### 平和運動を妨害

平和委員会の代表

いま平和を愛する世界の人びとの注目のなかで、三十数カ国の代表をむかえて、成功裡に大会が開かれましたが、この国際的な会議を、暴力をもつて妨害しようとした政府があります。それは、わが国の政府であります以上のような意義ある報告が各代表からされ、成功裡に午後八時終了した。なお、このあとアトラクションとして三川鉱のコールマイン、またコーラスなどの特別出演もあつて盛大であつた。

# 突撃目標は三鉱労組だ
# 県警察の弾圧演習
## 本部長は知らぬとウソブク

いま日本の独占資本と権力は、安保条約を強引に押し通すために平和勢力の中心である労働組合に目をむけて来ている。王子製紙、主婦と生活、メトロ自動車、熊本自労、など数をあげれば限りないほどである。その中で一人の善良な労働者をフミ殺した田原製作所の暴力介入、志免の幹部逮捕など明かに警察権力の行き過ぎである。ところがあはや他人事ではなくなつた。三池炭鉱労働組合を仮想敵として福岡県警、熊本県警が公然と演習を行い弾圧のホコを向けて来ていることである。以下その事実を報告する。

# 実戦同様の訓練

福岡県警機動隊は九月四日午前十一時から粕屋和白海岸の県警射撃場で〝実戦〟そつくりの警備演習を行つた。これは首切り合理化、賃金分割払に反対して闘う行動の中でおこつてくる座込みや、ピケを除くのが訓練の目的とされている。

射撃場の正門には本物のバリケードを張り門柱には「○○鉱業所正門」と立看板まで掲げて実感を出した。門内にはにわか組合員に化けた警官が背の出勤服、赤ハチマキで座込み〝はたぜ〟に早変りした広報車はスピーカーで「警察官は組合の争議に介入するな」「警官帰れ」「不当弾圧」といつつとは攻守所をかえた大熱演で組合員に化けた警官は盾をこじあげられたり、腹をつかれたりみんな痛そうな顔で悲鳴をあげる。

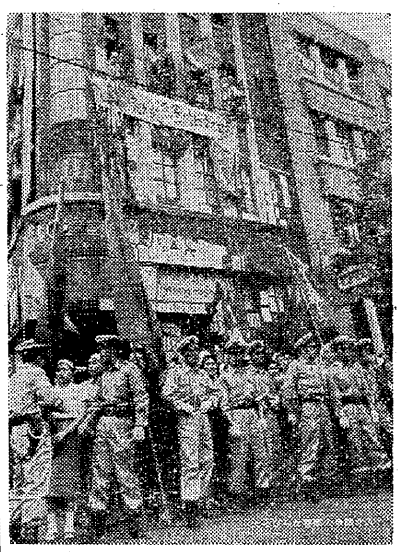
一方乱闘服に鉄帽武装した警察組は発煙筒の煙幕をくぐつた一隊がバリケードにロープをかけ全員で引倒して前進、続いてピケ隊の中央を警棒をつかつて突破、仮想敵を三池としてピケ排除の実戦訓練が行なわれた。

九州炭労では九月八日花園副委員長、小竹法対部長らが谷川、笹田弁護士と同道、宮地県警本部長に厳重な抗議を行つた。

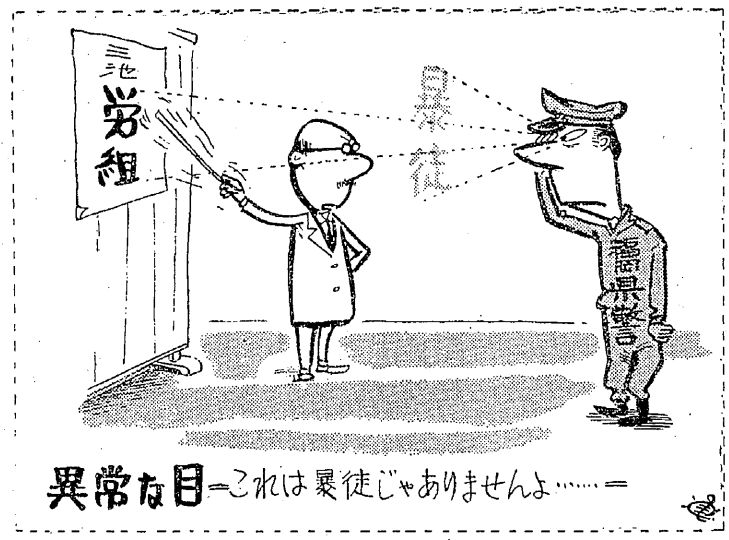
### 九本で事実調査

宮地本部長は抗議のなかで本部要の職にありながら、ピケ排除の演習もやつたのを知らなかつた。翌日新聞を見てビツクリしたとうそぶいていた。さらに、三池では相当の争議が予想されるが警察は起つた事態に対し適正に対処していくだけで、弾圧を計画することなど考えたこともない、といつている。

九本では当日の実戦訓練の模様を詳しく調査し抗議を続けていくとになつたが、歴史が教えているように、また闘いのなかで私達がこの眼でにらみつけてきたように警察はおこつた事態に対し適正に対処していくのでなく、首切り合理化反対の実力行使以前から私達を暴徒扱いにして、いま三池弾圧の方針が県警本部、大牟田署を中心に微密な計画が進められています。



「主婦と生活」社の警察権力の弾圧




暴徒ときめつけ警棒や乱闘服の手入れが今日も行なわれているのです。

# なまず田(菱三)にオルグして

三川　池田昭二

三菱なまず田の組合についたときは、やはり身内の家に落付いた気がした。

組合の雰囲気がやはり三池と共通して安心感をさそうのである。組合長はまあいうなら親分肌の本当に坑内労働者出身という親密感があふれている。

「どうです五千名の傭雇というが大変ですな、うちの組合は三池から見ると小さいですよ。まあ、ゆつくりして下さい」てな具合である。ここには四つ坑口があるが俺は四坑に行くことになつた。とにかく四坑の支部について四坑の坑外を見学して、支部事務所に行つて支部長の室で昼飯を御馳走になつた。

ここの支部は組合員三〇〇名で常任は支部長一名だけと書記一名である。そして社宅が坑口の近くだから三池でいうなら支部長は地域の分会長も兼ねているわけです午後三時ごろ、坑外の職場常会に参加した。話しにきいてみると、この四坑で前の希望退職のとき十四名の退職者があつて、それにともなう配転を会社が申出ているわけである。そのシワよせがボイラーの廃止ということで余た六名の転換が中心的に論議されていた「支部長、組合は反対反対というが本当に最後までやる気あるのかね」と組合員がたたみかける。

「組合は配転が希望退職によつておこることが分らんだつたのかね」そしたら、一方から「ボイラーは新しいのを一坑につくつて、組夫を入れるちゆうじやないかね」座談会にはボイラーの外に坑外炭鉱がある。書記長が日本刀で切られた保仁坑も左の方に見える。

全部の職種が集つているが、とても真剣だ。

夜の七時から居住区の座談会に出たが、「三井さんは給料がいいから、いまのとこ、その多い分でくいつなぎが、出来てるでしようよ」との質問にはおどろいた。

「いや炭労の資料でもそう三井と三菱との差はないのですが、三池でも借金をもつている人多いですよ」といつたら、けげんな顔をしていた。

昼前に支部長に連れられて坑口の上の山に登つたが、すぐ東には麻生太郎吉（吉田茂の娘むこ）の炭鉱がある。書記長が日本刀で切

# 三作分離問題で論議
## 統一と団結を守り闘い抜く

十日の戦術委員会で製作支部長より「製作所の分離について、支部委員会としては大衆の意向に従つて分離賛成という結論を出した。また、執行部としても同様賛成らざるを得ない」という報告があり、戦術委員会は機関で決定した「製作所の分離は企業整備の一環であり分離には反対」ということと相反するということで「即時分離に関する諸行動を中止する」よう支部執行部に要請し、執行委員会を開き、分離問題の討論を行うことになつた。

執行委員会は十日午後二時より製作支部講堂で開かれた。

書記長より経過報告がなされ、製作支部執行部より、機械メーカーとしての悩みがいろいろ述べられた。これに対して製作支部の苦悩はわかるが、第二次案で出されている分離案は、会社が意図している企業整備であり、これに乗ることは敗北への途であると、互に一・五〇〇人の組合員と家族の幸福のため激論が闘わされた。結局なぜ現段階でいま直ちに分離しなければならないかということになつた。

### 拍手の中で解決

【製作支部の主張】

企業整備闘争の段階で分離することは問題があろうが、製作支部としては株主総会前に組合の態度を出すことが、多年の念願である、完全雇傭・賃金の組替え・身分制度の撤廃などの諸懸案を有利に確約できる。

【本部の見解】

いま直ちに分離しなければならないという理由はまつたくない、企業整備闘争中に分離して行くことは、会社がおこなう企業整備に協力することであり、支部がいうような完全雇傭・身分制度の撤廃・賃金の組替えなどについても有利に解決できない。

以上を中心に深夜まで討議が交されたが、ついに製作支部の意向が認められない以上は、止む得ぬので脱退してでも分離するということで製作支部執行部は退場した。

本部側より説得を行つたが、現段階で分離を認めない以上執行委員会を継続しても無意味という返事があり、今後の対策を講ずるため中央委員会を十一日午前四時に召集し、執行委員会の経過が報告され、脱退防止に全力を挙げることを執行部に一任し、早速その行動に入つた。

午前五時三十分ごろ久保田副組合長は、本部役員会を通じ、この段階で分離や脱退ということは、製作支部組合員も含んで三鉱労組全組合員のマイナスであり、ただ喜ぶのは経営者だけだ。苦悩の解決はいろいろあるので最後の努力を行い、統一と団結を守るため頑張つてもらいたい。ということで、支部執行部との折衝が行われた。支部執行部は組合員大多数の分離に対する悲願はここ数年来のものであり、決して火事場泥棒的に分離をいま進めているのではない。しかしここで三鉱労組一六、〇〇〇人とたもとを分つことは労働者としてやるべきでなかろう。苦悩の解決ができれば、今次闘争終了後拍手の中で分離すべきであろうということで、支部委員会に打合せ、三役と支部執行部代表との、事態収拾のため折衝がつづけられた。

数次の折衝の結果

製作支部も従来通り組織の中で行動する。また支部の苦悩も十分わかつたのでその解決をはかる対策が相互間に意見一致したこの大綱を戦術委員会、中執、中委で確認され、問題を起した製作分離問題も、統一と団結を守る拍手の中で解決した。

# 小型ニュースカーの名前をつけて下さい

中央委員会で小型ニュースカーを購入することが決められ、早速注文をしましたが、新型で放送設備ができるよう改装することで期日がかかりましたが、来る十五日組合に到着し、十六日開催予定の決起大会で皆さんに挨拶をします。しかし、今度の小型ニュースカー君には名前がありませんので、何かよい名前をつけてください。

期日　九月十八日正午まで本部必着
当選　一名賞金一、〇〇〇円
入選　同名で当選もれの人には賞品進呈